

今年（令和6年）は神戸大学卓球部創立100周年

澤田一哉（昭和51年 神戸大学卒）

神戸大学卓球部（通称：神大卓球部）は、今年、創立100周年を迎えました。国公立大学卓球部の中では最も早い創立のようです。大正13年に（当時は神戸高等商業学校）、若竹八重治さん（大正15年卒）、森永一郎さん（昭和2年卒）他10数名の部員で卓球クラブを発足し、活動を開始したのが発端です。翌年の大正14年に全日本大学高専大会3位、大正15年には全関西大学高専大会で優勝しています。森永さんは、後に凌霜卓友会（神大卓球部OB・OG会）初代会長に就任されました。現在は、私が6代目会長を務めています。

関西学生リーグでは、昭和8年に（当時は神戸商業大学）、関西学院大学を破って優勝しています。令和元年、69年振りに男子が1部昇格した時には「昭和8年優勝の古豪神戸大学が1部に復帰」とニュースになりました。女子も、昭和56年と60年の2度に亘って1部昇格を果たしています。最近は男女共に3部でしたが、今年の春季リーグで女子は36年振りに2部昇格を果たし、創立100周年に華を添えてくれました。

この歴史と伝統の神大卓球部創立100周年を記念して、7月6日に、記念講演会と祝賀会を開催しました。インターネット（Zoom）を活用して、六甲台キャンパス会場、東京会場（東京六甲クラブ）、全国からのWeb参加を合わせて、現役部員とOB・OGの総勢約140名が参加しました。国公立大学卓球連盟と一卓会（一橋大学卓球部OB・OG会）から祝電を頂きましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

講演会では、凌霜卓友会の顧問で、先々代会長の江崎勝久さん（昭和39年卒、江崎グリコ（株）会長）にご挨拶を頂き、私が色々な資料を掘り起こして「神大卓球部100年の歩み」を紹介しました。更に、参加者に近い話題をと思い、各界で活躍されているOB・OGの中から、清家久樹さん（昭和62年卒、神戸農政公社理事長）に「私の大好きな街・神戸（現在・過去・未来）」を、鈴木桂子さん（昭和53年卒、神戸大学客員教授）に「日本の火山事情」をお話頂きました。それに加えて、或る伝手を辿って、全日本シングルス準優勝3回、女子ダブルスは4連覇を含む優勝5回、今回のパリオリンピックでは現地でテレビ解説を務められた藤井寛子（現姓：下川）さんに、「繋ぐ」と云うタイトルで特別講演をお願いしました。ご自身のこれまでの活躍はさておき、ご家族、恩師、先輩、同僚、後輩、裏方に思いを馳せられ、周囲の皆さんに感謝して現在も活動されているのが分かり、藤井さんのお人柄が滲み出る内容でした。ご多忙にもかかわらず、詳細に神大卓球部ホームページをご覧になられて、講演に盛り込んで下さったことにも感銘を受けました。

祝賀会では、幅広い年代のOB・OGから、学生当時の思い出などを写真なども交えて紹介して頂きました。私は、未だに大事に持っている「Kobe」のロゴ入りのジャージを披露しました。最後に、恒例の商神（神戸高等商業学校当時の校歌で現在も神大の愛唱歌）と神大卓球部部歌を皆で円陣を組んで大合唱し、盛会裡に終了しました。部歌は、豊田錫さん（昭和37年卒）の作曲、井上義明さん（昭和38年卒）の作詞で、お二人が現役部員の時に創られました。以来、卓球部コンパ、OB戦懇親会、凌霜卓友会総会など、こと有る毎に歌いますが、未だに毎回、皆で歌うと、気持ちに大学時代にタイムスリップしてしまいます。

神大卓球部は、昭和45年に部誌「緑の館」を創刊以来、毎年、部誌を発行しています。今年は、卓球部と凌霜卓友会が協力して、創立100周年記念号として発行する予定です。

私と全国公、そして近況：

少しだけ私個人のことに触れます。全国公では、2回生の平塚大会で1年先輩の竹本博史さんとのダブルスで優勝、3回生の神戸大会ではシングルスで3位、望外の成績でした。今も、生まれ育った街・神戸で、神大OB・OGの先輩や後輩、中学時代からの球友を始め、多くの仲間と共に卓球を続けています。全国公OB・OG大会にも毎年参加しています。昨年度、神大は男子シニアと一般女子でアベック優勝を果たしました。また、昨年度は全日本マスターズで兵庫県代表となり、本大会でも運よく2回勝つことが出来ました。試合会場で全国公出身者や神大の後輩の姿を見つけると、何となく嬉しくなります。

写真1：創立当時の練習場「緑の館」

写真2：講演会場で藤井寛子さん、江崎勝久さん、講演者を囲んで

写真3：祝賀会で大学時代のジャージを紹介

写真4：祝賀会終了後、商神と卓球部部歌を大合唱

写真5：昨年度の全国公OB・OG大会男子シニアの部で優勝